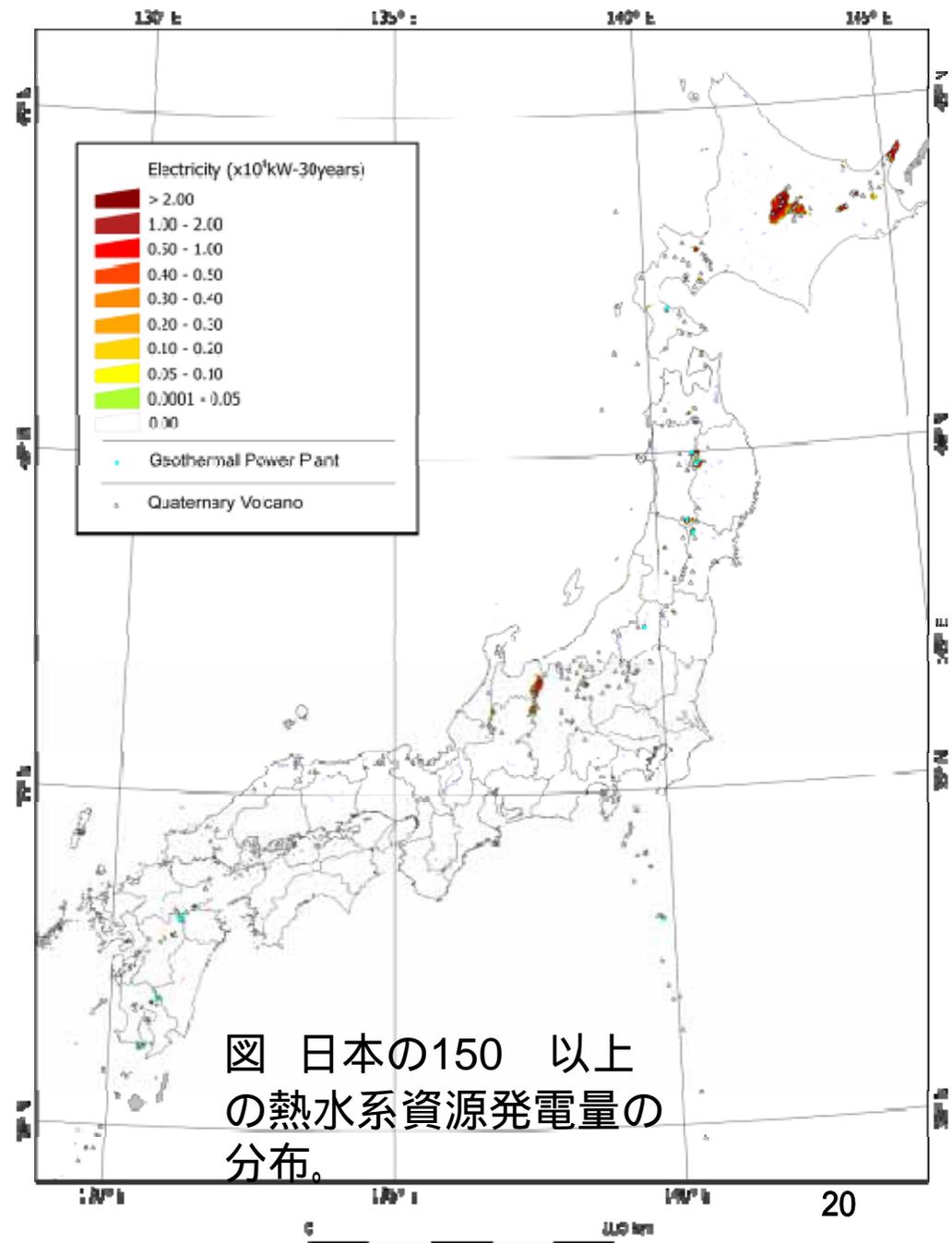


日本の熱水系資源 (5/11)

- しかし、このGIS地熱資源量評価によって、地熱資源の偏在が浮き彫りとなった(右図)。
- 圧倒的に多量の熱水系資源が、大雪・十勝火山群、知床火山群、北アルプス火山群に分布している。
- とくに、大雪・十勝火山群は突出している。

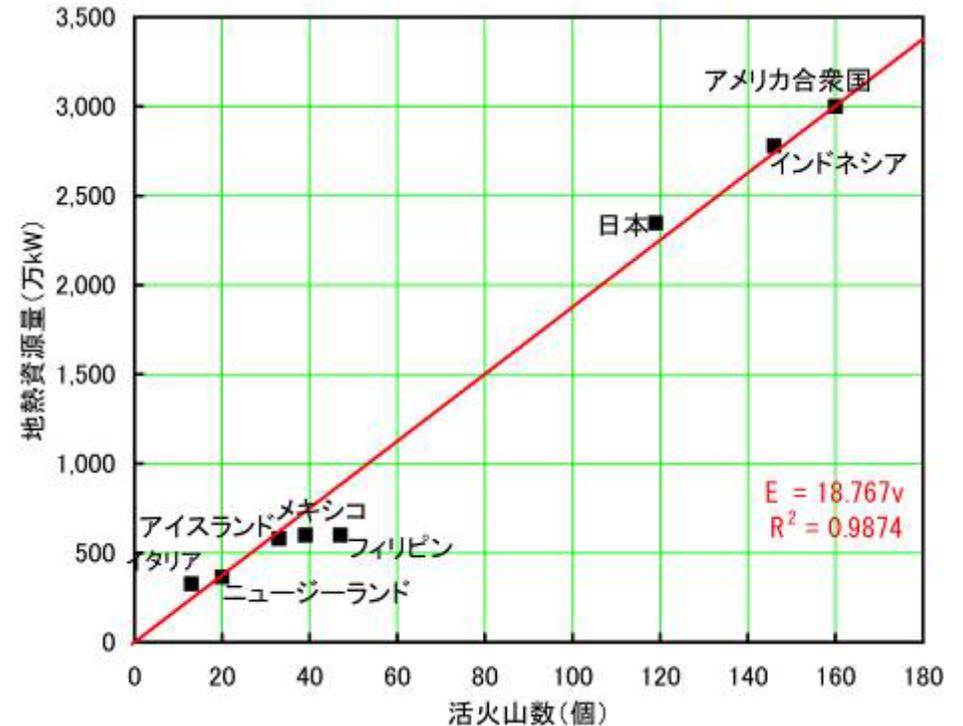
第3表 大雪・十勝を意図的に下方修正したランク5位までの内訳

順位	地域名	資源量(万kW×30年)	全国シェア(%)
1	大雪・十勝火山群	1,028	43.8
2	知床火山群	424	18.1
3	北アルプス火山群	224	9.5
4	八幡平火山群	148	6.3
5	栗駒・鬼首火山群	87	3.7
	その他の地域	436	18.6
	計	2,347	100.0



日本の熱水系資源 (6/11)

国名	活火山数 (個)	地熱資源量 (万kW)
アメリカ合衆国	160	3,000
インドネシア	146	2,779
日本	119	2,347
フィリピン	47	600
メキシコ	39	600
アイスランド	33	580
ニュージーランド	20	365
イタリア	13	327



Stefansson (2005) を修正した世界主要地熱資源国の活火山数と地熱資源量の正相関。日本の地熱資源量には新しい評価結果を入れた。その結果、インドネシア、アメリカ合衆国、日本が他を圧倒する三大地熱資源大国であることがわかる。

日本の熱水系資源 (7/11)

- かつて、NEDO(1989)により、国立・国定公園内に分布する地熱有望地域は57.0%と見積られた。

第3表 150 以上の熱水系資源と国立・国定公園の分布の関係

資源量算出域の区分	資源量(万kW×30年)	全国シェア(%)
国立・国定公園合計	1,922	81.9
国立・国定公園特別保護地区	780	33.2
国立・国定公園特別地域	1,142	48.7
その他	425	18.1
計	2,347	100.0

- しかし、今回のGIS地熱資源量評価によれば、150 以上の熱水系資源の81.9%が国立・国定公園特別保護地区・特別地域内となる。
- つまり、国立・国定公園の開発規制を受けない地域は18.1%に過ぎず、425万kWに過ぎない。
- 日本の地熱発電立地の最大の障壁は国立・国定公園といえよう。

